

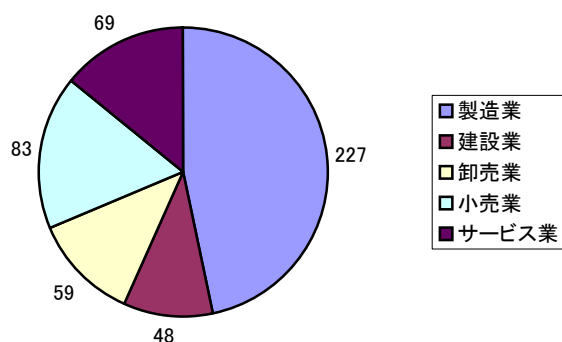
景気動向

景気は、このところ弱含んでいる。
先行き見通しは、慎重な見方が続いている。

- 調査時点 平成20年10月調査(20年9月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 486社(回答率:60.8%)
(製造業227社、建設業48社、卸売業59社、
小売業83社、サービス業69社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	227
建設業	48
卸売業	59
小売業	83
サービス業	69



<全産業>

全産業の業況DI(▲56.8)は、前回(▲50.8)に比べて6.0ポイント低下した。業種別では製造業、建設業、卸売業のDIはわずかに悪化を示し、小売業のDIは横ばいを示した。サービス業はわずかに改善を示している。企業の収益環境は原油価格高騰、原材料価格上昇を製品価格に転嫁できず厳しい状況が続いている。ガソリン価格高は一服感がみられるものの、食料品等の値上げの影響から、個人消費は支出を控える動きが強まり売上に影響を与えている。

3か月先見通しは製造業は横ばい、非製造業はわずかに改善を見通しているが、引き続き原油・原材料価格動向、公共工事の発注量、消費の低迷、世界経済の減速等の不安要因がみられ、慎重な見方が続いている。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
9月末時点	-56.8	-47.5	-57.4	-33.6
6月末時点	-50.8	-39.3	-56.0	-30.4
前回比	-6	-8.2	-1.4	-3.2

■全産業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	6.6	8.3
悪化	63.4	59.1
DI値	-56.8	-50.8
前回比	-6.0	-11.7

■9月末時点から見た全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	4.7
悪化	54.1
DI値	-49.4

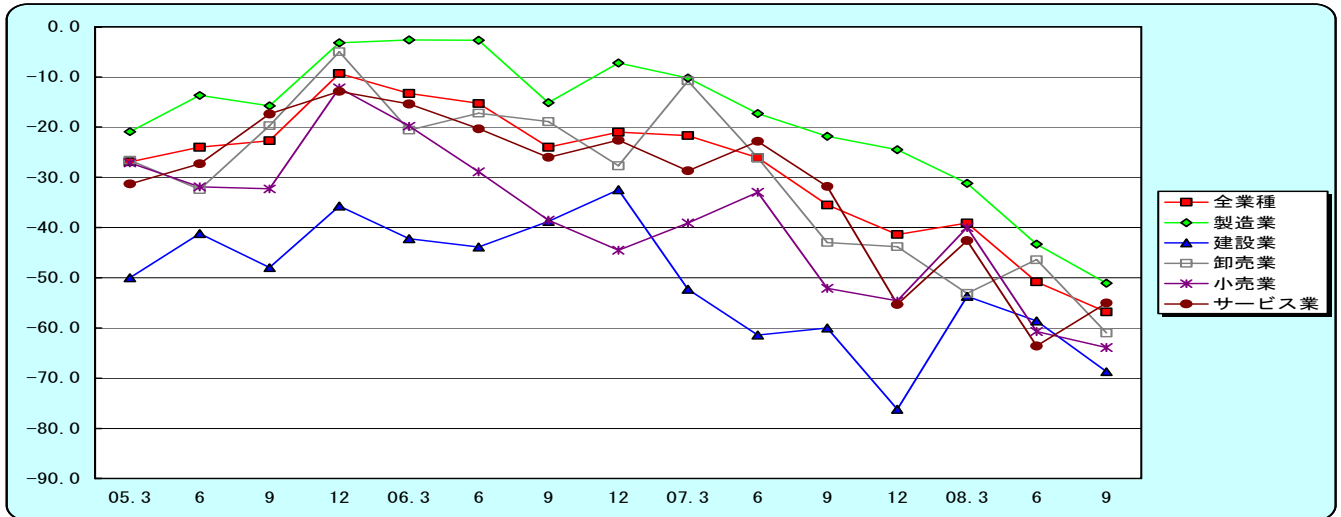
■製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	7.5	11.3
悪化	58.6	54.6
DI値	-51.1	-43.3
前回比	-7.8	-12.1

■非製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	5.8	5.7
悪化	67.6	63.0
DI値	-61.8	-57.3
前回比	-4.5	-11.3

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-51.1
先行き	-47.6
前回比	-7.8

対象企業	354
回答企業	227

業況・売上・資金繰りはわずかに悪化傾向を示し、採算は横ばいを示した。業種別にみると「酒造」の業況の前回比は改善を示した。「ニット」「縫製」「木材・木製品」「窯業・土石」「輸送用機器」は改善傾向を示し、「印刷」は横ばいを示した。「プラスチック」の業況は悪化を示した。「食料品」「織物」「鉄鋼・非鉄」「金属」「一般機械」「電気機器」は悪化傾向を示し「精密機器」は悪化に転じた。3か月先見通しは、業況・採算は横ばいを見通し、売上・資金繰りはわずかに悪化を見通した。業種別にみると「食料品」「織物」「木材・木製品」「電気機器」「輸送用機器」「プラスチック」の業況は改善を見通している。「ニット」「印刷」は横ばいを見通し、「酒造」「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「精密機器」は悪化傾向を見通している。

自由意見

製造業

- 中国食料問題が売上に影響し、売上激減。 【食料品】
- 客単価が減少し始めた。 【酒造】
- 繊維(和装)の市況は、これまでにない程悪い。ただし、先3ヶ月は需要期に入るため、売上・業況は良化する予想される。 【織物】
- 衣料品、売れないとのメーカー報告で業界悲鳴。 【縫製】
- 原油価格の高騰により原材料の価格が上昇しているが、それを販売価格に反映させることがなかなかできないため厳しい状況にある。 【木材・木製品】
- 建築業界をとりまく環境が非常に悪い。しわ寄せが我々業界に波及し、先が見えない。 【木材・木製品】
- 建設業界、大変悪い。 【木材・木製品】
- 販売価格の下落と仕入単価の上昇になかなか追い付いていけない状況にある。 【木材・木製品】
- 当社周辺の殆どの事業所の内容は悪化し、破綻寸前と聞く。倒産企業は相次ぎ、経営者個人の踏んばりのみで頑張っているようだ。金融監督庁の評価システムにより銀行は高利貸化し、業況が厳しい事業所は、高金利負担を強いられるという悪循環に陥っている。 【木材・木製品】
- 受注が少ないため、同業者間の競争で自分の首をしめている。 【印刷】
- 用紙の再値上げ、インキの値上げ、版材の値上げで資材は全て値上りした。(10~15%) 【印刷】
- 地方の建設業は公共事業が主体の為、私共資材納入業者の場合も大幅な受注減になり、まして原油高のあおりでセメント等資材も値上がりし、採算を維持するのが大変むずかしい事態となっている。お客の与信管理の点でも頭を痛めている。 【窯業・土石】
- 業界は低入札の連続で、そのしわ寄せが我々末端いじめにつながっている。仕事の減少と相まって収益悪化、売上減少と事業縮小、整理も考えなければならぬ程悪い状況になっております。 【窯業・土石】
- 3ヶ月先の予定が不透明です。リードタイムが短くなり、サブプライム等がどの様に影響するか。 【窯業・土石】
- 毎日、赤字赤字の連続。運転資金がなく困っている。銀行は赤字会社には金はだせないと融資してもらえない。倒産する他ないのかと思案中。銀行の貸し渋りをやめさせて下さい。強く望みます。もう、一息なのに息の根を止められる思いである。 【鉄鋼・非鉄】
- 今年度は、7月までは昨年を上回る生産高であったが8月以降は客先の生産量が「ガクン」と落ちて来た。 【金属】

○全体的に落ちているという感じ。早めの対応が重要と考える。	【金属】
○すべてにおいて大変厳しい。	【金属】
○昨年10月より、受注高、生産高ともに上昇していたが、先行き不透明。	【金属】
○自動車(輸出)が悪化しており、その影響が出て来ている。	【金属】
○材料値上分が売価に反映出来ず。	【金属】
○金融市場の混乱で先行不透明ではあるが、徐々に受注が増えると思っている。	【一般機械】
○受注減少スピードが早く対応出来ない。	【一般機械】
○先3カ月はまだ見通しつかず、悪化傾向にある。	【一般機械】
○国際経済の早期安定化を望むのみ。	【電気機器】
○2009年3月迄は、受注状況の改善は見込めないと考えますし、4月以降も良くなる気配は感じられない。かなり厳しい不況になるかもしれない。	【電気機器】
○同業界においては仕事量が少なく、先の見通しもまったく立たずこまっているところがほとんどと言って良いのでは？ 自社においては仕事量は持っているものの、すべてが初期設計からのものばかりで、従来のようにリピート品がなく加工現場とのバランスが今一である。	【電気機器】
○受注の減少と原材料の高上がりにて採算の悪化が急速であり、今後が厳しい局面となる。	【電気機器】
○材料値上先行。売上価格への転嫁が遅れている。売値の改善が見込めるものの、景気悪化により10月以降厳しい環境を迎えることになる。(フルスライドできず、厳しい状況にある。)	【輸送用機器】
○平成20年7月以降、御取引各社共に減少方向にあり、10月以降もその傾向が継続する見通しである。	【精密機器】
○一部発注企業からコストダウンの要請あり。	【精密機器】
○原材料値上の影響で、採算割れして苦しくなっている。	【プラスチック】
○重油がまだかなり高い！原料が高い所で止まったままの状態である！	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-68.7
先行き	-62.5
前回比	-10.1

対象企業	72
回答企業	48

業況・売上・採算はわずかに悪化傾向を示し、資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「土木」「建築」の業況の前回比はわずかに悪化を示した。3か月先見通しの業況・売上・採算はわずかに改善傾向を見通し、資金繰りはわずかに悪化を見通している。業種別にみると「土木」の業況・売上・採算はいずれもわずかに改善傾向を見通し、資金繰りは横ばいを見通している。「建築」の業況・売上は横ばいを見通し、採算は改善傾向、資金繰りは悪化傾向を見通している。

自由意見

建設業

○一般競争入札の激化と価格の値下がりにより、建築業界は悪化。	【土木】
○市場の値上りに県の設計単価が順応できていない。	【土木】
○公共工事の減少に伴い、民間工事も減少。加えて競争激化、資材単価の高騰により収益を圧迫している。	【建築】
○公共事業費の減少。	【建築】
○地元工事は公共民間共に地元優先発注の方向に成ることを願う。公共工事の入札に付いては、監視委員会等に依り見直されなければならないと思う。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-61.0
先行き	-54.2
前回比	-14.6

対象企業	106
回答企業	59

業況・売上・採算はわずかに悪化傾向を示し、資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「鮮魚」の業況はわずかに改善を示したが、「衣服」「飲食料」「青果物」「機械器具」「建築材料」は悪化傾向を示した。3か月先見通しの業況・売上・採算はわずかに改善を見通し、資金繰りは悪化傾向を見通している。業種別にみると「衣服」の業況はわずかに悪化、「飲食料」「青果物」「機械器具」「建築材料」はわずかに改善を見通した。

自由意見

卸売業

- 原油高等による原材料の高騰等で、消費財(衣料品)の動きが悪くなっている。【衣服】
- 商品業界は、事故米や中国産乳製品の問題であまりにも過剰に反応しすぎており、收拾がつかない状態である。【飲食料】
- 秋需が起こらず厳しさを増すばかりである。【建築材料】

<小売業>

業況DI値	
今回	-63.9
先行き	-42.2
前回比	-3.2

対象企業	161
回答企業	83

業況・売上・資金繰りはいずれも横ばいを示し、採算は改善傾向を示した。業種別にみると「中小スーパー」「家電品」は改善を示し、「飲食料」「自動車販売」「家具・建具」「大規模店」は悪化を示した。3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのいずれもわずかに改善を見通している。業種別にみると「自動車販売」の業況は改善を見通し、「中小スーパー」「衣料」「飲食料」「家電品」「家具・建具」も改善傾向を見通している。「大規模店」は横ばいを見通している。

自由意見

小売業

- 以前よりの不況のあおりと燃料の高騰により、フリー客はめっきり減少し、困っている。【中小スーパー】
- 厳しい状況を何とか打破し、前向きに進んでいきます！！ 【衣料】
- 顧客の年齢が高齢化し、新たな客層も取込む事が出来ず、商店経営もあと何年位持つか、当地方全般の状況である。【衣料】
- 市内中心街はシャッター通りとなり、土日はとくに悪い。【衣料】
- 不況です。【飲食料】
- 本当に不景気を感じる。お金が使えないのが現実です。大企業は別として中小企業は、生き残る技なしですね。【飲食料】
- 商店街の人通りが無く苦戦している。【飲食料】
- 小売業なので、お客様のサイフのヒモの固さを非常に感じる。(5月ごろから) 【家電品】
- 老人の家が増えたため工事が多くなり、店も忙しくなっている。利益は余りありませんが、借入はしなくても仕入代金は支払いできている。【家電品】
- 平日の来店客が少なくなった。販売商品を変えて行く方向を持って営業をしていかなければと思い行動をしている。【家電品】
- 最近燃料等の影響が大で、採算面で大きな落ち込みとなっている。これ以上の継続は困難が予想される。【自動車販売】
- 先行が心配だ。【自動車販売】
- 世界経済の減速を反映して益々不安材料があと押し、どこかでマイナスの連鎖を食い止めて欲しいものだと感じている。継続に力を注ぎ生き残りをかけてる思いは切実である。【家具・建具】
- 消費マインドの低迷。客数減。【大規模店】
- 値上り商品の単価アップと売上減で相殺。消費力低下が顕著である。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-55.0
先行き	-50.7
前回比	8.6

対象企業	107
回答企業	69

業況・採算は改善傾向を示し、資金繰りは横ばいを示したが、売上は悪化傾向を示した。業種別にみると「観光旅館」「運送」の業況は改善傾向を示したが、「タクシー」「情報サービス」は悪化を示し、「自動車整備」は横ばいを示した。3か月先見通しの業況・売上・資金繰りはいずれも横ばいを見通し、採算はわずかに改善を見通している。業種別にみると「タクシー」「情報サービス」の業況は改善を見通し、「観光旅館」は横ばいを見通しているが、「運送」「自動車整備」はわずかに悪化を見通している。

自由意見

サービス業

- | | |
|---|----------|
| ○益々ひどくなる。つぶれてしまう。 | 【旅館・ホテル】 |
| ○給湯に使用する重油が高騰している。仕入や消耗品の価格も全て値上げである。 | 【旅館・ホテル】 |
| ○6月の地震以降、受注の状況が非常に悪い。 | 【旅館・ホテル】 |
| ○先行きが見えない。 | 【旅館・ホテル】 |
| ○3ヶ月先の予想は、正直のところ全く予想つかず。ホテル部門は価格競争が激化している。 | 【旅館・ホテル】 |
| ○市場の動きはにぶく、特に夜間の客数減少は不安を感じる。同業他社も自社で行っている事と同様に通客を中心に運行している様子。 | 【タクシー】 |
| ○ここに来て、軽油代は若干下がったものの、去年に比べてまだまだ高い状況が続いており、経営を圧迫している。 | 【運送】 |
| ○9月からの軽油価格の下落で助かっている。 | 【運送】 |
| ○営業努力で販売を拡大して、売上増加につなげ、燃料高騰分をいくらかでもカバーできればと努力している。今が我慢のしどころか？ | 【運送】 |
| ○通信工事(特に光工事)は減少している。経済の落込みで、高い月額料金を支払うのが大変のようだ。 | 【情報サービス】 |
| ○先行きの見通しが立たない。 | 【その他】 |
| ○仕事で要求される内容が今までと違って来ていると同時に難しくなっている。(業務内容の変化) | 【その他】 |